



口絵 ドブソンオゾン分光光度計の比較観測風景

札幌管区気象台と沖縄気象台から回収したドブソンオゾン分光光度計を含む6台と、アジア地区準器の計7台で戻り検定、個別測器の特性調査を目的とした比較観測を行っている様子である。

## 口絵解説

### ドブソンオゾン分光光度計によるオゾン層観測

#### DOBSON Ozone Spectrophotometer

1957年の国際地球観測年(IGY)をひかえ、1955年7月1日に高層気象台で始まったドブソンオゾン分光光度計によるオゾン層観測は、2018年1月31日をもってその役割をブリューワー分光光度計に譲り、60年を超える国内での運用を終了した。

なお、国内での運用は終了したものの、WMO第II(アジア)地区校正センターの業務とアジア地区準器の維持および南極昭和基地での観測は、引き続き高層気象台の支援により続けられる。

(上野 圭介)\*

\* Keisuke UENO : 高層気象台 観測第二課